

令和5年度多摩・島しょ広域連携活動助成金事業計画一覧表（観光振興連携活動）

| NO | 年数 | 連携組織名 | 事業名 | 構成自治体等 | 申請額 | 事業内容 |
|----|----|---------------------------|--------------------------|---|-----------|---|
| 1 | 1 | 福生・羽村・瑞穂地域の魅力を結ぶプロジェクト協議会 | 福生・羽村・瑞穂地域の魅力を結ぶプロジェクト事業 | 福生市、羽村市、瑞穂町、福生市観光協会、一般社団法人羽村市観光協会、瑞穂町観光協会 | 4,000,000 | <p>【目的】 2市1町は往来もスムーズにできるコンパクトなエリアであり、そのエリア内で味わえる「体験」≪経験≫をテーマとして都心部や近隣県に住む方々をターゲットに、気軽に行ける観光地として、地域資源の再発見や既存コンテンツの磨き上げを行いながら2市1町の魅力を結ぶルートを満喫するツアー造成やサイト構築等を行い連携自治体の観光資源の魅力発信と新たな交流人口を獲得し、同時に域内事業者の観光産業や誘客に関する育成も目指す。</p> <p>【内容】 ①旅行会社、交通事業者、2市1町内事業者、ターゲットエリア内居住者への調査 →構成自治体の認知度や観光資源等について調査を実施し、モデルコース選定や次年度以降のモニターツアー開催へ繋げていく。交通事業者は主に構成自治体内を運行する事業者とする。 また、ターゲットエリア内居住者に対してはインターネット調査等を通じて構成自治体の観光資源に対する興味関心、来訪意向等の調査をする。 なお、無作為に実施するのではなく、2市1町に訪れたことがあり、日帰り旅行をして、本協議会エリアまで電車で2時間以内といったようにスクリーニング質問をした後に該当者に対してアンケート調査を行うことで、結果の精度を高める。</p> <p>②モデルコースを選定してモニターツアー開催(3コース選定) →選定したモデルコースにおいて、まち歩きツアーを開催し、既存資源の活用方法やコース選定の妥当性等について、ツアー参加者からアンケートを取り、その結果を踏まえ、必要に応じてコースの修正をする。 参加者はターゲット層に合わせて選定する。</p> <p>③ワークショップの開催 →モニターツアー後にワークショップを開催して、ツアーの課題整理やその他活用できる資源を洗い出し、モデルコースの修正等を行う。</p> |
| 2 | 2 | シェアサイクル観光連携推進協議会 | シェアサイクル観光連携推進事業 | 立川市、小平市、日野市、国分寺市、国立市、福生市、武蔵村山市、OpenStreet株式会社 | 7,022,840 | <p>【目的】 令和4年度より、広域連携が可能なシェアサイクルを導入した立川市、福生市において、新たな地域交通の担い手のひとつとして、シェアサイクルが活用され定着するよう、広域利用のPR活動等を通じて促進を図る。 また、既導入自治体との連携も想定し、シェアサイクルを軸とした観光地等の相互連携を推進させるなど、新たな広域コミュニティの形成及びその活性化を行う。</p> <p>【内容】 立川市、福生市に加え、連携の枠組みをシェアサイクルの同一フォーマットを導入済みの近隣自治体へと拡充して、行政域や従来の「西多摩・北多摩・南多摩」といった地域のつながりだけでなく、シェアサイクルを通じて連携し、利用を促進することで、当該地域における人口の相互交流による活性化を目指して取り組む。 利用の動機づけとして、構成自治体間の市域をまたいでシェアサイクルを利用し、観光地にチェックインした場合など、次回利用時に使用可能な無料クーポンを配布するとともに、構成自治体を拡充させたことから、利用回数や訪問した観光地の数に応じて抽選で特典が当たるなど、更なる広域利用が促進されるようなキャンペーンを行う。 また、広域連携の認知度向上のため、事業コンセプトを視覚的に伝えるランディングページを作成するとともに、台数限定で構成自治体のご当地キャラクター等が装飾された自転車を実装することで、シェアサイクルを利用する楽しみも向上させるような取組とする。あわせて、上記特典に構成自治体の特産品や特徴的なサービス利用券などを用意して、構成自治体の魅力の発信、シティプロモーションの観点からも有意義な事業となるよう取り組むことで、当該地域外からの人口流入についても促進し、更なる活性化につなげていく。 ◎プロット位置の選定(各自自治体10箇所×7自治体を想定) ◎オリジナルのドレスガードを作成・実装(各自自治体5台程度×7自治体) ◎ポータルサイトの構築・運用 ◎効果測定(アンケート調査等)の実施</p> <p>【実施場所、対象者、参加予定人数】 ◎立川市、小平市、日野市、国分寺市、国立市、福生市、武蔵村山市の市内 ◎各市におけるシェアサイクル利用者 ◎500回(人)×2月=1,000回(人)の利用(1回×2月又は2回×1月)を想定</p> |
| 3 | 2 | 北多摩縄文連合 | 北多摩縄文の里 | 調布市、国分寺市、東村山市、国立市、西東京市 | 1,692,840 | <p>【目的】 文化財行政に関しては、国も文化財を保存から保存と活用へと政策を変換している。 また、「北海道・北東北の縄文遺跡群」が世界遺産に登録される等、今、縄文に注目が集まっている。北多摩地区にも、国の重要文化財の指定を受けている縄文の貴重な遺跡、出土品が存在している。 そこで、貴重な縄文の遺跡を持つ市で連合をくみ、縄文の魅力・歴史的意義をPRし、地域振興及び広域観光を推進することを目的とする。</p> <p>【内容】 縄文時代の遺跡や遺物の保存や活用について意見交換を行う。 連合市間で縄文に関する展示、講演会、体験等の広報等で協力を図る。 地域の縄文時代の遺跡・遺物を解説するパンフレットを作成し、実際に各市を巡ることで縄文時代への理解を高められるようにする。また、パンフレットには、各市の地域観光等に関する情報も掲載し、スタンプラリー等を開催し、回遊を高める。</p> <p>【実施場所、対象者、参加予定人数】 スタンプラリーを5市で実施 対象者 博物館の来館者(メインターゲットは小中学生とその保護者)、参加予定人数は500名</p> |
| 4 | 3 | 東京アドベンチャープロモーション協議会 | 東京アドベンチャープロモーション事業 | 青梅市、奥多摩町、青梅市観光協会、奥多摩観光協会、御岳山観光協会、青梅商工会議所、東日本旅客鉄道八王子支社 | 8,000,000 | <p>【目的】 青梅、奥多摩エリアで観光PR動画を作成する。 動画には、2年目の取組みにおいてインフルエンサーが青梅、奥多摩で様々な体験をする動画も組入れ、インフルエンサーの影響も有効に活用していく。</p> <p>【内容】 ＜SNSを活用した認知度の向上＞ ●青梅市・奥多摩町の観光情報を総合的に発信するアカウントを設け、インスタグラムに観光施設や季節の魅力、イベント情報などの質の高い情報をリアルタイムに発信する。 ●都心のファミリー層への影響力の高いインフルエンサー等を活用することで、投稿した情報がターゲットに適切に届くようにする。 ●インスタグラム投稿頻度を維持するとともに、地域の事業者や住民の有志である「情報発信隊」による投稿割合を増やす。新規加入の促進、加入者の継続性を確保することを目的に、情報発信隊のスキルアップを兼ねた撮影研修会を開催する。投稿KPI100(協議会50:発信隊50) ＜観光PR動画共同プロモーション＞ ●地域の事業者や住民の有志である「青梅・奥多摩情報発信隊」が現地で撮影した訪問・体験レポート動画をこまめにアップすることで、次の週末の来訪につながるプロモーションを行う。 ●訪問・体験レポート動画は、登山・ハイキング、リバーアクティビティ、キャンプ、バーベキュー、フィッシングなど、テーマ別に取りそろえることで、フォロワーの興味・関心に沿って選択できるようにする。 ●インフルエンサーおよび情報発信隊の投稿した動画を総編集として共通の動画として活用する。また、フォロワーの積極的な情報発信を促すため、フォトコンテストやムービーコンテストを開催する。投稿された素材については、投稿者の許可を得た上で協議会で活用する。 ＜MAPを活用した情報発信＞ ●情報発信隊が取り上げた施設などを一覧で表示できる青梅・奥多摩エリア周遊MAPを作成し、HP等で閲覧できるようにする。</p> <p>【実施場所、対象者、参加予定人数】 実施場所:青梅市、奥多摩町 対象者:都心のファミリー層、Z世代 参加予定人数:協議会・部会 20人、情報発信隊 5人(青梅市3名、奥多摩2名)</p> |
| 5 | 3 | 多摩地域マイクロツーリズムプロジェクト実行委員会 | タマリズムプロジェクト | 多摩市・稲城市・八王子市・日野市・町田市・多摩大学・京王観光株式会社 | 5,000,000 | <p>【背景】 新型コロナウイルス感染症の影響により、インバウンドや国内旅行が激減し、観光事業者や飲食店をはじめ、地域経済に大きな影響を与えている。一方で、移動自粛期間中においても人々の旅行ニーズは高く、近隣地域への移動、特に多摩地域においては、屋間に人が密集する都心部に比べ観光周遊が継続している傾向がある。</p> <p>【目的】 本プロジェクトは、マイクロツーリズムを『地元や近隣を含めた広義の「観光まちづくり」』と定義し、「地元の魅力」を再発見するとともに、地域に造詣の深い人材の発掘などを通じ、地元自治体や観光協会、事業者同士の信頼関係を根付かせることにより、地域内関係人口を増やし、地域経済への貢献を目指す。</p> <p>【内容】 本プロジェクトでは、次世代を担う大学生等2名以上で構成するチームから公募したアイデアをもとに、公募チームと地域自治体・事業者とのマッチングを行い、実用化に向けたブラッシュアップをしていくことを1年間の流れとする。プロジェクト期間中は主に多摩地域居住者の周遊ニーズにむけた、マイクロツーリズムのコンテンツ(周遊コースに限らない)として実用化検証を行うとともに、期間後の5年目以降にむけ、マイクロツーリズムをデジタル媒体などに集約するとともに、ツアー旅行や宿泊旅行のオプションとしての実用化し、インバウンド需要にもつながるマイクロツーリズムコンテンツとしていく。 年度途中では企画プレゼンを実施し、「課題解決力」、「実現性」、「地域活性化」、「SDGs」、「創意工夫」、「熱意・意欲」と、その他「汎用性」、「実証実験」などを審査し、良案提案チームに対して活動支援金を支給し、実証への支援を行う。なお、「汎用性加算」については、令和4年度以降の連携自治体数の増加に伴い、2つ以上の市域を跨いだプロジェクトによる地域間連携効果を高めるため、市域を跨いだプランの考案についても評価を加える審査項目を追加する。 また、年度末には報告会を実施し、マイクロツーリズム企画書を審査員にむけプレゼンテーションし、自治体・観光団体・民間事業者とドラフト会議で最終マッチングし、上位の団体には賞品を授与する。</p> |